令和３年度　広島市公文書館ロビー展

絵はがきからたどる広島あの頃　－市街南東部－

展示番号	資料名	資料の概要
1	広島市街全景	大正10(1921)年頃、二葉山の頂上から南方を撮影したパノラマ写真の絵葉書。4枚組。左の2枚には明治23(1890)年に設置された東練兵場が写っている。大正期　広島□〇堂発行
2	東練兵場での騎馬練習【写真】	東練兵場のすぐ近くには騎兵連隊が置かれており、東練兵場では騎兵連隊の騎馬演習も行われていた。
3	東練兵場での演習風景(「県立広島中学校発火演習記念絵葉書」より)	広島県立広島中学校の生徒が東練兵場で行った演習の記念絵葉書。これは模擬戦闘の様子を撮影したもの。大正9(1920)年　大手町高橋
4	東練兵場に並ぶ陸軍九一式戦闘機【写真】	東練兵場に並ぶ陸軍九一式戦闘機を撮影した写真。東練兵場では兵器献納式等のイベントも行われた。昭和10(1935)年6月24日　渡辺襄撮影
5	東練兵場にて　ハイキングの親子【写真】	演習が行われないときは、東練兵場の中を歩くことができた。写真中央左側には国前寺の山門や建物が見える。昭和12(1937)年5月30日　渡辺襄撮影
6	昭和9年起　事務書類　草津南町	草津南町総代の昭和9(1934)年の事務書類の綴。広島市では、明治維新後も近世以来の伝統を継ぐ町総代(町世話役)が町ごとに任意で選ばれており、町内の自治を担っていた。昭和16年4月に町内会、隣組が設けられるまでは、町総代が市からの通知の周知等を行っていた。
	・兵器献納命名式並市民大会挙行ノ件通知	昭和9(1934)年3月8日付で広島市役所から各町総代に送付された通知。同年3月10日に東練兵場で兵器献納命名式と市民大会を開催することを知らせるもの。
	・兵器献納命名式次第	昭和9(1934)年3月10日に開催された兵器献納命名式の式次第。参列者一同による皇居遙拝、国歌合唱から閉式までの流れが書かれている。
	・兵器献納及模擬戦会場要図	昭和9(1934)年3月10日に開催された兵器献納命名式と模擬戦の会場見取り図。この時献納されたのは武装を施した装甲自動車であった。献納品や観覧者の配置、来賓用の馬や車の置き場所等が細かく書き込まれている。
7	自昌山国前寺	日蓮宗の寺院。山門(仁王門)と参道を中心に全景を撮影したもの。現在も山門をはじめ本堂や庫裏等江戸時代の建造物が残っている。(大正13(1924)年　広島市編・発行『広島市史　社寺誌』より)
8	広島東照宮	徳川家康を祀る神社。石の鳥居と石段、その奥の唐門が写っている。大正12(1923)年発行
9	東照宮	広島東照宮の石段前の参道の両側に植えられているのは桜。明治以前から桜が植えられており、「桜の馬場」と呼ばれる桜の名所だった。(大正13(1924)年　広島市編・発行『広島市史　社寺誌』より)
10	広島尾長山麓東照宮	広島東照宮とその前の桜並木を撮影したもの。満開の桜の下に集う人々の姿が見える。昭和(戦前)期　広島□〇堂発行
11	鶴羽根神社	鶴羽根神社の石の鳥居とその奥の太鼓橋等を撮影したもの。いずれも現在も同じ場所に残っている。大正期発行
12	広島鶴羽根神社	神社境内から石灯籠と太鼓橋を撮影したもの。橋の奥に見える草木や鳥居等が一部彩色されている。明治期発行
13	広島月光山明星院境内	真言宗の寺院。広島城の鬼門(東北)に位置するため、江戸時代は城の守護・祈祷所であった。右側に写っている建物が本殿。大正期発行

展示番号	資料名	資料の概要
14	饒津神社（石灯籠）	浅野長政追悼のために建立された神社。中央にある二の鳥居の手前には藩士が奉献した24基の石灯籠が写っている。昭和（戦前）期発行
15	饒津神社（二の鳥居と狛犬）	二の鳥居と狛犬を撮影したもの。奥には向唐門が写っている。昭和16（1941）年発行
16	広島饒津神社　三百年祭渡御行列	神社の祭神「浅野長政」の没後300年を記念して行われた「三百年祭」の絵葉書。三百年祭では、広島東照宮の神輿渡御を模した行列が行われた。これは行列が広瀬神社へ向かって出発するところ。明治43（1910）年5月撮影
17	広島饒津神社　三百年祭記念時代行列	三百年祭では、浅野長晟が広島に入国した当時の衣装や祭具を再現した時代行列が行われた。これは、行列が広島東照宮前の桜の馬場辺りに差し掛かったところ。明治43（1910）年5月撮影
18	安芸国饒津神社並公園地之図	饒津神社と鶴羽根神社を含む一帯は、明治7（1874）年、広島県により公園に指定され、広島市内最初の公園「饒津公園」となった。これはその翌年に作成された木版画。神社の建物や参道の鳥居、石灯籠、花見客の様子などが細かく描かれている。明治8（1875）年発行
19	饒津神社保存商議大意	饒津神社は天保6（1835）に建立されたが、それから僅か50年ですでに頽廃が進んでいた。これを憂い、饒津神社の「永久保存」のためには、有志が協議して保存策を検討する必要があるとして「協保会」が結成され、寄付金の募集が行われた。これは、会発起の経緯や規則、予算書、寄付金募集手続等をまとめた冊子。発起人には元家老を初めとして旧藩士等が名を連ねていた。明治17（1884）年　協保会編・発行
20	彩色石版刷広島名勝図絵　饒津神社・広島市街	広島名所の彩色石版画。饒津神社の当時の二の鳥居、石灯籠、参道の松と参拝者の様子が鮮やかに描かれている。明治28（1895）年　田井久之助発行
21	京橋（南西から）【写真】	昭和2（1927）年8月に架けられた広島市内で最も古い鋼橋。左奥には二葉山が見える。昭和2（1927）年8月　田部俊一撮影
22	京橋（北西から）【写真】	完成間もない時期の京橋。親柱に「きやうはし」と刻まれた銅板がはめ込まれている。欄干や支柱の金属の装飾は、戦時中供出された。昭和2（1927）年8月　田部俊一撮影
23	広島諸商仕入買物案内記並ニ名所しらべ	当時「広島区」であった広島の中心部の店舗と名所をまとめたもの。店の屋号や営業内容、通りから見た外観と店の内部が銅版画で詳細に描かれている。明治16（1883）年　渡辺莱之助編
24	京橋町田中屋呉服店の割引券	京橋町にあった田中屋呉服店の割引券。持参して1円以上の呉服太物を購入すると5分（5%）割引きされ、また福引券がもらえると書かれている。
25	広島郵便局電話番号簿　大正11年7月1日改	大正11（1922）年の広島郵便局管内の電話番号簿。「タ」の項には京橋の田中屋呉服店の名がある。この頃の電話番号簿は契約者名のイロハ順に記載されており、巻頭と巻末には、「一般通話心得」や通話料金表などが付されていた。大正11（1922）年　広島逓信局発行
26	猿猴橋開通式前夜　点灯試験の様子【写真】	猿猴橋開通式前夜に行われた照明灯の点灯試験の写真。親柱の地球儀の装飾も照明であったことが分かる。大正15（1926）年2月　田部俊一撮影
27	広島猿猴橋	大正15（1926）年2月に竣工した猿猴橋を東詰から撮影したもの。橋西詰中央に見える2階建ての建物は東警察署、その右は芸備銀行（現広島銀行）京橋支店。大正～昭和（戦前）期　広島□〇堂発行
28	猿猴橋・東警〔察〕署	福井芳郎のスケッチ画。戦前の猿猴橋西詰の風景。右側の木造2階建ての建物が東警察署。その左側の木橋が大正15年に架け替えられる前の猿猴橋。その奥には東松原の松や二葉山が描かれている。 『がんす横丁』（薄田（すすきだ）太郎著　たくみ出版　昭和48（1973）年発行）の挿絵として描かれたもの。

展示番号	資料名	資料の概要
29	東松原町	福井芳郎のスケッチ画。猿猴橋東詰の東松原町の風景。手前には広島東照宮の参道の一部であった東松原の「いろは松」が描かれている。 『がんす夜話』(薄田(すすきだ)太郎著　たくみ出版　昭和48(1973)年発行)の挿絵として描かれたもの。
30	広島停車場	広島停車場(広島駅)は、明治27(1894)年6月、山陽鉄道の広島延伸に伴い設けられた。左奥に見える瓦屋根の木造の建築物が広島停車場の駅舎。明治～大正期発行
31	広島停車場構内	停車場構内の交差する線路とポイント、煙を上げて走る機関車が撮影されている。明治～大正期発行
32	広島駅及東郵便局	広島駅は、大正11(1922)年11月に国内初の鉄筋コンクリート造りの駅舎として建て替えられた。左側の建物が広島東郵便局。駅舎の前には自動車や人力車が停まっている。昭和(戦前)期　広島□〇堂発行
33	広島停車場　(広島駅)	大正11(1922)年11月に竣工した広島駅の絵葉書。西隣の広島東郵便局も写っている。絵葉書には「広島停車場」と印刷されているが、この頃の名称は「広島駅」であった。昭和(戦前)期発行
34	広島駅駅舎内部【写真】	駅舎の中を撮影した写真。入口広間は吹き抜けになっていた。鉄筋コンクリート造りだが、床までは整備されていなかったことが分かる。昭和11(1936)年10月29日　渡辺襄撮影
35	広島駅ホーム【写真】	東京に出発する知人をホームで見送る一行を撮影した写真。昭和11(1936)年7月29日　渡辺襄撮影
36	広島駅前　バス車内から【写真】	バス車内から広島駅前を撮影した写真。駅東側の建物や駅前に停車しているバスや自動車が見える。昭和10(1935)年6月16日　渡辺襄撮影
37	比治山公園ヨリ見タル広島市街ノ一部	比治山公園南部の展望台付近から北西の市街中心部方向を撮影したもの。中央を流れるのは京橋川。左側には明治期に架けられた鶴見橋が見える。大正期　広島□〇堂発行
38	比治山公園	桜が咲く比治山公園を撮影したもの。左側に公園の桜が、右側に公園に上る道が写っている。(昭和7(1932)年　広島市編・発行『第16回　広島市勢一般』より)
39	広島比治山公園多聞院境内　毘沙門堂	多聞院境内にあった毘沙門堂を撮影したもの。この堂には本尊である毘沙門天が祀られていた。明治期　広島□〇堂発行
40	山陽文徳殿	山陽文徳殿は、頼山陽の没後百年を記念して広島市が建設した廟。これは昭和9(1934)年10月の竣工から間もない時期に作成された絵葉書。西洋風の重厚な外壁と九輪をいただく和風の屋根が特徴的。昭和(戦前)期　広島□〇堂発行
41	御便殿	御便殿とその前の鳥居、石灯籠を撮影したもの。手前にある2基の石灯籠のうち1基は、当時の場所(現比治山公園内)に現存している。昭和16(1941)年発行
42	比治山の御便殿	御便殿前の桜と花見客を撮影した彩色絵葉書。手前には屋台も見える。公園入口に立つ2基の記念碑は今も公園内に残っている。昭和(戦前)期発行
43	比治山の人出　花見【写真】	花見時期の比治山公園を撮影した写真。中央手前から奥の山頂に続く道は「キリンビール」と印字された桜ぼんぼりで飾られ、花見客で賑わっている。昭和11(1936)年4月19日　渡辺襄撮影
44	比治山　花見客【写真】	出店や桜ぼんぼりが並ぶ道を歩く花見客を撮影した写真。昭和12(1937)年4月3日　渡辺襄撮影

展示番号	資料名	資料の概要
45	広島陸軍兵器支廠比治山土壇土車運搬桟橋之図 【写真】	明治40(1907)年、陸軍兵器支廠造成地から南東に向けて撮影した写真。この付近はもともと新開地で地盤が軟弱であったことなどから、土砂を盛って建物が建てられた。この写真には、山からトロッコで土砂を運ぶために設けられた軽便軌道の仮設の橋が写っている。
46	広島陸軍兵器支廠比治山兵器庫新築工事中(其一)大岩組請負【写真】	広島陸軍兵器支廠の新築工事の写真。2階建てのレンガ造りの倉庫が次々と建設される様子が分かる。大正2(1913)年頃に撮影されたもの。広島市郷土資料館所蔵・提供
47	霞町の広島陸軍兵器支廠【写真】	広島陸軍兵器支廠の煉瓦造りの倉庫と蓮根田を写した写真。この頃の霞町周辺は水田や蓮根田が広がっていた。昭和10(1935)年10月6日　渡辺襄撮影
48	陸軍被服廠広島派出所建築中之景【写真】	陸軍被服支廠建築中の風景を撮影した3枚組の写真。左側から縫製工場、事務所建物、木造倉庫など。中央には資材搬入用軽便軌道が敷かれており、資材はトロッコで運搬されていた。後ろに見えるのは黄金山。明治38(1905)年9月20日撮影
49	広島陸軍被服支廠　倉庫及貨物ホーム	広島陸軍被服支廠は、明治37(1904)年に陸軍被服支廠の派出所として設置され、同40年に被服支廠に昇格した。左上の写真は被服支廠の倉庫、右下の写真は宇品線を利用して貨物を運搬するために設けられた貨物ホーム。
50	皆実新開の風景【写真】	皆実町付近は、江戸時代から明治にかけて開発された新開地。この頃は、水田や蓮根田といった農地が中心であったが、徐々に住宅が増えていった。 昭和11(1936)年5月19日　渡辺襄撮影
51	広島瓦斯株式会社全景	広島瓦斯株式会社(現広島ガス株式会社)の開業記念絵葉書。明治43(1910)年10月、皆実村に開業した当時の社屋とガスホルダー(ガスタンク)が写っている。明治43(1910)年　広島瓦斯発行
52	広島瓦斯広島工場　ガスホルダー2基【写真】	創業時からのガスホルダーと大正時代に増設されたガスホルダーの2基が並んでいる様子。昭和11(1936)年9月13日　渡辺襄撮影
53	広島瓦斯広島工場　ガスホルダーと蓮根田【写真】	ガス工場すぐ裏手の蓮根田と住宅。皆実町周辺は蓮根田が広がっていたが、この頃には住宅が増えていた。昭和11(1936)年9月13日　渡辺襄撮影
54	広島地方専売局局舎	大正10年(1921)年に竣工した広島地方専売局の局舎を撮影した写真。煙突も写っている。広島県下の史蹟名勝・主要教育関係施設・官公庁等を写真入りで紹介した『広島県史蹟名勝写真帖』(昭和10(1935)年　教育公報社編・発行)に掲載されたもの。
55	広島地方専売局　両切煙草工場(ボンサツク機械)	広島地方専売局では主に両切紙巻たばこが製造されていた。これはたばこを自動的に紙に巻き取る機械「ボンサック機械」と作業を行う工員の様子を紹介する絵葉書。戦前期
56	宮島広島名所交通図絵	表面は、吉田初三郎が描いた広島市街から宮島までの鳥瞰図。裏面の「広島瓦斯電軌沿線名所案内」では、広島電軌軌道(現在広島電鉄)の市内線、宮島線沿線の名所が写真入りで紹介されている。昭和3(1928)年　広島瓦斯電軌株式会社発行
57	大日本職業別明細図　大広島市 昭和14年【複製】	昭和14(1939)年の広島市内の市街地図。官公庁、学校、商店、社寺等の名称が詳細に記載されている。昭和14(1939)年　東京交通社発行
58	広島市街明細地図　明治20年【複製】	明治20(1887)年、広島が広島区であった頃の市街地図。宇品港から横浜や神戸など日本各地までの距離も書かれている。隣接する宇品村、皆実村、国泰寺村などには幹線道路しか記入されておらず、開発途上であったことが分かる。明治20(1887)年　浅井馨編・松村善助発行
59	最新実測広島市街全図　明治27年【複製】	日清戦争が勃発した明治27(1894)年に発行された市街地図。山陽鉄道や広島駅から宇品港に延びる宇品線の線路が記載されている。広島城内には「師団本営」の文字が見える。明治27(1894)年　鈴木常松発行
60	最近実測広島市街地図　大正15年【複製】	大正15(1926)年頃の広島市街地図。学校、官公庁、社寺、工場(ガス・缶詰・ソーダ、ゴム等)、商店等の施設や軌道等が書き込まれている。広島湾内には牡蠣養殖、海苔養殖、水産物などの情報も書き込まれている。大正15(1926)年広島市編・発行 『第10回　広島市勢一斑』附属地図

展示番号	資料名	資料の概要
61	広島市街地図　昭和10年【複製】	昭和10(1935)年の広島市街地図。皆実町南部の区画整理が進んでいるのが分かる。京橋川河口の防波堤や河川修築の予定が赤で書き込まれている。昭和10(1935)年　広島市役所編・発行

※ 絵葉書の発行年について

・絵葉書の袋、検閲日または押印されているスタンプ等で年を特定できるものは、その年を採用しています。

・詳細な年次が不明であり、当館が推定したものについては、「明治」、「大正」等と大まかに記しています。

・昭和は、昭和20(1945)年8月15日以前を戦前、16日以降を戦後としています。

なお、絵葉書は、古い写真を使用して作成しているものもあることから、作成時期と撮影時期は必ずしも一致しません。